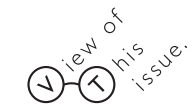


CONTENTS

【特集】  
三重から世界へ  
産学連携による国際戦略

[ View of This Issue ] 三重から世界へ 地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな 教育・研究成果を生み出す。 ～人と自然の調和・共生の中で～	01
● 理事・副学長   野村由司彦	
[ 特集 / 対談 ] 三重から世界へ、 産学連携による国際戦略。	02-07
● 住友電装株式会社社長   内桶文清 ● 学長   豊田長康   司会   理事・副学長   奥村克純	
[ RESEARCH FRONT 1 ] 効果的な駆除剤を開発し、 世界の海の赤潮被害を防ぐ	08-09
● 大学院生物資源学研究科教授   前田広人	
[ RESEARCH FRONT 2 ] 世界をリードする計算手法を開発し、 ナノテクノロジーの可能性を探究	10-11
● 大学院工学研究科教授   伊藤智徳	
[ RESEARCH FRONT 3 ] 遥か6500万年前の化石から探る 日本列島の生い立ち	12-13
● 教育学部教授   本田 裕	
[ RESEARCH FRONT 4 ] 気道粘液の過剰産生を抑制し、 患者さんのQOLを改善するために	14-15
● 大学院医学系研究科教授   間島雄一	
[ CLOSE-UP Interview ] 地域の中小企業の発展をライフワークに、 産学官の枠を越えていく	16-17
● 人文学部教授   渡邊 明	
[ 連載   CHRONICLE OF MIE VOL.1 文学編 ] 明治文壇の鬼才、 斎藤緑雨	18-19
● 人文学部教授   尾西康充	
[ 連載   CHRONICLE OF MIE VOL.2 美術編 ] 「東海道五十三次之内 亀山 雪晴」	20-21
● 教育学部教授   山口 泰弘	
[ 三重大学の目指す社会連携 ① ] 創造開発研究センター 社会連携創造部門 産学官の新しいつながりを生み出し、 三重大学発ベンチャーを育成。	22
[ TOPICS ] 皆見省吾記念賞 Legal Medicine優秀論文賞 日本自然災害学会学術賞 第17回日本循環薬理学会「Young Investigator's Award」 日本臨床化学会奨励賞 日本臨床検査医学会優秀演題賞 環境に関する国際マネジメント国際規格「ISO14001」を取得 血栓症・動脈硬化モデル動物作製法	23-24
2007年6月～12月 三重大学の主な出来事	24

のむらよしひこ  
工学博士  
専門分野は、メカトロニクス、  
情報処理、ロボットビジョン  
1953年生まれ



三重から世界へ  
地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな  
教育・研究成果を生み出す。  
～人と自然の調和・共生の中で～

理事・副学長(教育担当)  
野村由司彦

今回のテーマは、標題の三重大学の"基本的な目標"のキャッチフレーズ、"三重から世界へ"である。本学の基本的な目標は多くの大学では理念などとして表明されているが、これはどのように位置づけられるのだろうか?そこで、48の総合国立大学について、それに当たると思われる記述を調べてみた。

その結果、本学のように1行程度の大学もあれば、1頁を超す大学、明瞭でなかった大学もあった。まず、本学のキーワード、地域、世界、教育、研究、人、自然に類似のものを掲げている大学の数をあげよう。世界(国際社会)が最も多く8割、地域、教育(人材育成)、研究(学術)、人(人類社会)がそれぞれ6割、自然(地球、環境)が2割だった。世界と地域の人気は予想外であった。参考までに、本学は用いていないが、使用頻度の多いキーワードを紹介しておこう。それは意外に少なく、4割が使用している文化(人間性)、及び2割の自由、平和である。これらの数字から、「特定のキーワードの組合せにより、大学が個性を打ち出している」という構図も見えてくる。ここで、表現がシンプルで、本学の主題にほぼ一致しているという条件を付加すると、金沢大学、高知大学、長崎大学と、わずか3大学に減ってしまう。さらに、世界に誇れる"美し国、三重"にある本学は、副題で人と自然を謳って格段の独自性を醸し出している。

さて、このように"三重から世界へ"の独自性は再確認できた。それを実現する方法はさまざまであろう。本号特集にも掲載されているが、住友電装の内桶社長は、部品メーカーは自動車メーカーとともに世界に打って出る他に道はなく、その陰で徹底的にニーズを追及し、独自技術を確立し、そして世界の自動車メーカーにも食い込んでいったと、自動車産業の来し方を振り返られた。世界を視野に入れてニーズを見究める。強みを生かして力を蓄える。そして勇気を奮って決断する。ここでも本学の教育目標、感じる力、考える力、生きる力が求められるわけだ。社会のニーズは?三重大学らしさは?そして、三重大学はどうすべきか?この特集は、それを考える一助となろう。